

Son of Ampzilla 2000

100W+100W Stereo Power Amplifier



「巨人」第2弾、TUBISTOR



およそ30年前、GAS社（Great American Sound Co.）は、James Bongiornoによって設計された伝説のアンプジラシリーズを発表、数万台が生産され一大センセーションとなりました。このアンプは、ソリッド・ステート・アンプの「パンチ」を保ちながらチューブ・アンプ特有の滑らかさと繊細さを示すことが特長で、多くの熱心なユーザーを生みました。事実、その多くが未だに愛用され、優れた音響特性及び製品の信頼性の高さを示しています。GAS社の後、James Bongiornoは新たにSUMO社を設立、そのSUMOアンプは独創的な「フル・ディファレンシャル、フル・コンプリメンタリ」と呼ばれるバランス・ブリッジ構想を導入した最初のアンプです。James Bongiornoによる第三のSST社（Spread Spectrum Tech. Inc.）は、モノラルバージョンのAmpzilla2000、ステレオバージョンのSon of Ampzilla2000を発表しました。両機とも「SAE-GAS」と呼ばれるオリジナル設計構想の第三世代を採用しています。

Son of Ampzilla2000の回路設計は、風変わりな新しい回路を採用せず、従来の設計の細部を更に洗練させました。製品仕様のスペックは必ずしも音響特性に関連しないため、我々はこれらの表示を省きました。無論、最も優れたアンプとしての低歪率、広帯域、そしてフラットな周波特性を示します。

出力は100ワット／チャンネルで1/2 ohm以上のいかなる負荷をも駆動させることが可能です。妥協せずに管球とソリッドステートの優れた音響特性を合成した「TUBISTOR」ともいえるこの新しいアンプは優れたチューブ・アンプの特性を彷彿させる滑らかな歪み特性を示し、荒々しさがなく滑らか、曖昧さもなく細やか、濁りのないソリッドなローエンドを実現。膨大なパワーを必要としないユーザーには、この新Son of Ampzillaこそベストセクションです。

- 1) 入力から出力まで完全なバランス構成、フォア・クオドラント差動プッシュプル・フィードバック回路によりスピーカーの±両サイドを制御しています。
- 2) 新Son of Ampzilla2000はオリジナルと違って全ての信号回路がサーボ・コントロールになっています。
- 3) パワーサプライの容量は旧Son of Ampzillaの3倍です。本機のパワートランスは、それぞれの回路／チャンネルに完全に独立した巻線でパワーサプライし、計2000VAを示します。
- 4) 独自開発したグラウンド／アース処理は完全なグラウンド・ループ除去を保証、ワイドバンド・ノイズも地上のいかなるアンプもなし得ないほど極めて低い値を実現。
- 5) 定格出力時（80kHzフィルタ）のワイドバンド・ノイズは20 μ v以下です。これは入力ステージで1/2 μ vに相当し、存在する全てのフォノステージ入力よりも低い値を示しています。多くのユーザーのリスニングは比較的低い出力レベルで行われるため、ノイズのモジュレーションは極めて重要な要素です。
- 6) バランスもしくはアンバランス入力を自動選択するオート・スイッチングを採用、入力をシングルエンドに変えるバランス・コンバータを削除しました。

